

第 69 回クラシックを楽しむ会

2019 年 9 月 22 日 (日) 18:00～ (2 時間 30 分、休憩除く)

タイトル：歌劇「マクベス」(ヴェルディ)

会場等：ベルリン国立歌劇場公演

2018 年 6 月 11、17、21 日

管弦楽：ベルリン国立歌劇場管弦楽団

ベルリン国立歌劇場合唱団

指揮：ダニエル・バレンボイム

演出：ハリー・クプファー

出演：プラシド・ドミンゴ (マクベス)
アンナ・ネトレプコ (マクベス夫人)
ヨン・グァンチョル (バンクォー)
ファビオ・サルトーリ (マクダフ)
フロリアン・ホフマン (マルコム)
その他



第 2 幕 王位についた祝宴の場。友人バンクォーの亡霊に怯えるマクベスと妻

「マクベス」の物語

マクベス夫人は夫を国王にするため、マクベスにスコットランド国王ダンカン殺害を唆し、クベスの友人バンクォー暗殺させる。マクベス夫妻は、魔女の予言を信じ、貴族マクダフとバンクォーの子供を皆殺し。妻子を殺されたマクダフとダンカン王の遺児たちが復讐を誓い進軍してくる。マクベスは夫人の狂死の報せのなか出陣するが、予言の魔力を失いマクダフに倒される。

名場面・名曲

第 4 幕の「夢遊の場」。マクベス夫人が、手についた血を落とすように擦りながら歌う狂乱のアリア「消えてしまえ、呪わしいこのシミよ」が特に有名。

ベルリン国立歌劇場

ベルリン国立歌劇場 (リンデン・オーパー) はドイツの著名な歌劇場。ベルリン市の **ウンター・デン・リンデン通り**※にある。ベルリン国立歌劇場管弦楽団 (シュターツカペレ・ベルリン) はその付属オーケストラ。

※ブランデンブルク門から東にプロイセン王宮まで続くウンター・デン・リンデン (菩提樹の下) は 17 世紀に作られた。東西ドイツ分裂時代は東ベルリンに属し、爆撃で破壊された歴史的建造物が再建された。シャンゼリゼ、5 番街と並ぶヨーロッパ有数の繁華街である。



ベルリン国立歌劇場

第 70 回クラシックを楽しむ会(予告)

タイトル：楽劇「ワルキューレ」(ワーグナー)

12 月 8 日(日) 15 時 30 分開場、16 時上映開始

① 10 月と 11 月は改装工事のためお休み。12 月は大スクリーンのお披露目、70 回記念上映、忘年会を兼ねて楽しみましょう!

ザルツブルク復活祭音楽祭 50 周年記念公演 2017。50 年前の抽象的な舞台美術をベースに現代の視点で再演出。シュターツカペレ・ドレスデンをクリスティアン・ティーレマンが指揮。出演はペーター・ザイフェルト、アニヤ・ハルテロス他。11 月は集会場改装で休み。12 月以降、バイロイト音楽祭 2019 歌劇「タンホイザー」、ザルツブルク音楽祭 2018 年 8 月の歌劇「スペードの女王」、ザルツブルク音楽祭 2014 年 8 月の歌劇「ドン・ジョヴァンニ」などを予定。

あらすじ

【時と場所】

時は 1040 年、舞台はスコットランド。

【登場人物】

- マクベス** スコットランド王ダンカンの臣下で将軍、ダンカンを殺害してスコットランド王になる。
- マクベス夫人** マクベスの妻。マクベスをたきつけ悪行を重ねさせる。
- ダンカン** スコットランド王。マクベスを重用していたが、マクベスに殺される。
- マルコム** ダンカン王の長男。
- バンクォー** スコットランドの将軍でマクベスの友人。マクベスに暗殺される。
- マクダフ** スコットランドの有力貴族、ファイフの領主。マクベスに妻子を殺される。

【第 1 幕】

第 1 場 嵐の森の中。 スコットランド王ダンカンに仕える将軍マクベスと友人バンクォーは、嵐の荒野で魔女たちの一群に出会う。魔女たちは予言する。マクベスは「コーダーの領主となり、さらにスコットランド王になる」。バンクォーは「お前の子供は王となる」。このとき兵士がやってきて、予言通りコーダー領主が死去し、ダンカン王がマクベスをその後任に任命したことを伝える。

第 2 場 マクベスの居城の広間。 この予言のことをマクベスからの手紙で知ったマクベス夫人は、夫を王座に就かせようと野心を募らせアリア「さあ、急いでいっちゃい！」を歌う。その夜、ダンカン王がマクベスの城に宿泊。マクベスは夫人にそそのかされて王の寝室に忍びこみ短剣で王を殺害。夫人はうろたえるマクベスの短剣を奪い、衛兵の犯行に見せかける。

【第 2 幕】

第 1 場 マクベスの居城の一室。 王の遺児マルコムが隣国イングランドに逃亡したとして、王殺害の疑いをかけられる。マクベスは念願がかなってスコットランド王になる。しかしマクベスは、魔女がバンクォーに与えた予言が気になり、バンクォーとその息子の暗殺を決意する。夫人は罪を重ねる覚悟をアリア「日の光が薄らいで」で歌う。

第 2 場 マクベスの居城が見える夜の庭園。 刺客たちがバンクォー父子を待ち伏せ。バンクォーは殺害したが息子は取り逃がす。

第 3 場 王宮内の大広間。 マクベス国王就任の祝宴にスコットランドの貴族たちが集まっている。刺客からバンクォー暗殺の報せを聞いたマクベスは血まみれのバンクォーの亡霊に怯え狂乱。マクベスの口走る言葉に、マクダフ達一同はマクベスの悪事を察して恐怖にかられ、祝宴は混乱の中に終わる。

【第 3 幕】

森の魔女たちの洞窟。 不安に駆られたマクベスは、魔女たちにさらなる予言を聞きに行く。魔女は「マクダフに用心せよ」「女から生まれた者には負けない」「バーナムの森が動かない限り負けない」と予言する。マクベス夫妻は予言に従って、まずマクダフの妻子を皆殺しにすることを誓う。

【第 4 幕】

第 1 場 遠くにバーナムの森がみえるイングランドとスコットランドの国境地帯の荒野。 マクベスに祖国を追われたマクダフ達亡命者が集まって合唱「虐げられた祖国よ」を歌う。マクダフは城を焼かれ妻子を殺された悲しみ、アリア「ああ、父の手は」を歌う。ダンカン王の遺児マルコムがイングランドの兵を率いて現れ、バーナムの森の木の枝で身を隠して進軍せよと命じ、マクダフとマルコムはマクベスに復讐を誓う。

第 2 場 夜の城内の広場 夢遊病に陥ったマクベス夫人は、手についたダンカン王の血が消えないことに怯え、狂乱のアリア「消えてしまえ、呪わしいこのシミよ」を歌い狂死する。

第 3 場 城内の一室 マルコムやマクダフ達亡命者がスコットランドに攻め込んできたとの報告をききマクベスは怒る。「バーナムの森が動きだした」との報告に驚いて出陣する。

第 4 場 戦場。 マクベスは「女から生まれた者には負けない」と言って戦うが、マクダフに「母親の腹を割いて生まれた」と言われた瞬間マクベスは力を失い倒される。戦いに勝利して国王の遺児マルコムと英雄マルコムを讃える合唱「国王に幸あれ！」が高らかに歌われ。

出演



ドミンゴ



ネトレプコ



グアンチョル



サルトーリ



ホフマン

プラシド・ドミンゴ（1941 - ）はスペイン生まれのオペラ歌手（テノールまたはバリトン）、指揮者、歌劇場芸術監督としても活動している。

アンナ・ネトレプコ（1971 - ）は、ロシア出身のソプラノ歌手である。卓抜した実力のみならず、その美貌によっても名高い、現代を代表するオペラ歌手の一人である。

ヨン・グアンチョル（1966 - ）は韓国チョンジュ（青洲。全州ではない）市出身のバス歌手。電気もない農家で育った。17歳のとき聖歌隊で歌いはじめ、青洲の大学で教育を受けた。ソウル国立歌劇場でデビュー後、ドミンゴ国際コンクールで優勝するなど国際大会で受賞。ベルリン国立歌劇場のアンサンブルメンバー契約後、世界の主要歌劇場で活躍中。バイロイト音楽祭の常連で現代最高のワーグナー・バス歌手。

ファビオ・サルトーリ はヴェネツィア近郊トレビソ出身テノール歌手。スカラ座を中心にウィーン国立歌劇場など世界の主要歌劇場で活躍中。

フロリアン・ホフマン はベルリン生まれの若手テノール歌手。ベルリン国立歌劇場を中心にバイロイトなどで活躍中。

ダニエル・バレンボイム（1942 - ）はアルゼンチン・ブエノスアイレス生まれのユダヤ人ピアニスト・指揮者。現在の国籍はイスラエル。1992年からベルリン国立歌劇場の音楽監督に就任し現在まで継続している。2007年に「スカラ座のマエストロ」に就任後、音楽監督を務めた。現代を代表するピアニストであり、スタインウェイ社から、アーティスト・エディションの限定ピアノが、マルタ・アルゲリッチに続き、2015年バレンボイム・エディションとして発売された。

ハリー・クプファー（1935 - ）はドイツのオペラ演出家。ヨーロッパで最も前衛的なオペラ演出家として有名。バイロイト、ザルツブルクの音楽祭での演出は大きな評価を得た。80歳を過ぎた現在も精力的に活躍している。



スタインウェイ社のピアノにサインするバレンボイム



書斎で新演出のオペラについて語るクプファー



ベルリンのウンター・デン・リンデン通りから西のブランデンブルク門をのぞむ。ベルリン国立歌劇場は後方右。

原作

シェクスピアの四大悲劇 シェクスピア（1564 - 1616）は悲劇の戯曲を4作品残している。「ハムレット」（1601年）、「オセロー」（1604年）、「リア王」（1605年）、「マクベス」（1606年）の4作品は「悲劇時代」に書かれた。なお、「初期喜劇時代」に書かれた「ロミオとジュリエット」（1595年頃）は悲劇として扱われていない。

戯曲「マクベス」の原典 主にラファエル・ホリンシェッドの「イングランド、スコットランド、アイルランドの年代記」（1587年出版）で、ダンカン殺害の場面は「野心家の妻にそそのかされてダフ王を弑逆したドンワルド」のエピソードなどを取り入れた。

1603年エリザベス1世が崩御して、スコットランドのジェームズ6世が同君連合でイングランド王ジェームズ1世として即位した。「マクベス」に魔女が登場するのは彼の趣味を取り入れたとされる。

史実

シェクスピアの戯曲では主君を殺して王位を奪い、暴政を行って1年間でその報いを受けて滅ぼされる悪人として描いた。

実在のダンカン王 はスコットランドを統一した先代マルコム王の孫。性格が弱く恐ろしい男で、作戦に失敗し家臣の信頼を失っていた。いとこのマクベスも王位を主張していたが、同じくいとこのオークニー伯爵と同盟を結び、1040年にエルギンの近くでダンカンを破って殺した。当時はスコットランドは士族間の争いが絶えなかった時代である。

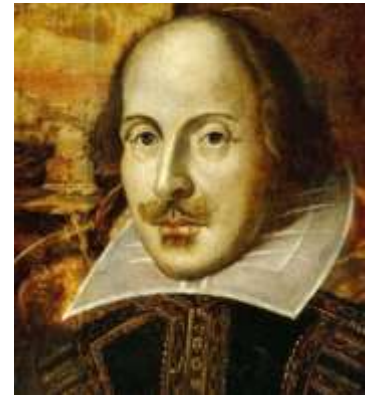
実在のマクベス は1005年頃生まれ1040年に王位についてから17年間も在位し、暴君ではなかった。実在のダンカン王は作戦に失敗し家臣の信頼を失っていた。マクベスは領地に攻め込んできたダンカン王を倒して領土を守った。スコットランド王になったマクベスは、法律を作ったり、キリスト教の布教に尽力するなど優れた統治をした。その後、ダンカン王の息子マルカム王子に王位を戻そうという運動が起こり、1057年マクベスはマルカム王子に殺された。

マクベス最後の戦い シェクスピアの戯曲では、「バーナムの森が動いた」との報告を受けて出陣したマクベスは、「母親の腹を割いて生まれた」マクダフに倒された。「バーナムの森」はシェクスピアの創作で、史実はバーナムの北東100km近く離れた「ランファナンの戦い」でダンカン王の子マルカム王子に殺された。

観光と史跡

「バーナムの森」 スコットランドのパーズに近い田舎町バーナムはシェクスピアのおかげで観光名所になった。シェクスピアが生きていた当時の**「バーナム・オーク」**が朽ちかけていることから保存運動が進められている。ナショナルトラスト運動を推進した絵本作家ピーターラビットの作者ヘレン・ビアトリクス・ポターもしばしばこの地を訪れたことから近くに記念公園がある。

「ランファナンの戦い」 の地はスコットランドのアバディーン近くにあるマクベス砦跡**「ランファナンのピールリング」**で、その近くにはマクベスが処刑された場所とされる**「マクベスの石」**がある。



シェクスピア



マクベス



中世のスコットランド(赤枠)



バーナム・オーク



ランファナンのピールリング